

米国ハートフォード、ニューヨークで 投資家向け説明会を開催

- 2008年1株当たり利益見通しを4.70ドル~4.90ドルに上方修正
- 損害保険事業部門における好調な引受事業と生命保険事業部門における焦点の明確化により、困難な環境においても事業が堅調に推移
- 年末時点での生命保険事業および損害保険事業の資本見通しは引き続き強固

2008年12月5日 コネチカット州ハートフォード -- ザ・ハートフォード・ファイナンシャル・サービス・グループ・インク（ニューヨーク証券取引所コード：HIG、以下「ハートフォード」）は、本日投資家向け説明会を実施し、事業概況、堅固な財務力、資本基盤、投資ポートフォリオについて説明します。説明会は午前9時（東部標準時間）から正午まで開催され、音声実録と関連スライドをウェブ（<http://ir.thehartford.com/>）上で公開予定です。

事業は堅調に推移

ハートフォード会長兼CEOのラマニ・アイアーは「ハートフォードの事業は困難な市場に照らせば堅調です。損害保険事業部門においては、2009年の引受業務が好調に推移すると予測しております。生命保険事業部門においては、長期的な成長の機会が望める事業と団体保険および個人向け生命保険市場での主導的ポジションの強化に引き続き注力してまいります」と述べています。

強固な資本基盤が継続

アイアーはまた「ハートフォードの資本基盤は強固で、十分な流動性を有しております。2008年9月30日現在、法定剰余金は130億ドルを超え、2008年11月30日現在、120億ドル超の現金、短期投資資産、および米国財務省証券を保有しております。当社の損害保険事業の資本基盤は、これまでAAレベルに格付けされた会社より高い水準にあります」と述べました。

さらに「本年末時点での当社生命保険事業の資本は現在の市場状況において十分であり、更なる大規模な市場悪化が起こったとしても、必要なレベル以上であると見込んでおります。現在保有している資本により、仮にS&P500が700まで下落した場合でも、本年末時点におけるリスク・ベース・キャピタル（RBC）比率325%を維持することが可能であり、28億5千万ドルの資本は未使用のまま残すことができます。また、2010年半ばまでに満期を迎える優先債務はなく、十分な流動性を保持することができます」と続けました。

投資ポートフォリオは経済的に健全

「当社が運用する約900億ドルの投資ポートフォリオの長期的経済価値については問題ないと確信しております。厳しい景気後退局面でも当社のポートフォリオは堅調に推移していくと見込んでおり、そのような状況下で想定される潜在的な経済的損失も織り込み済みです。当社の商業用不動産ローン担保証券（CMBS）は、十分な信用力に裏打ちされた高い格付けのものであり、地理的分布、物件タイプ、満期日の点で幅広く分散されています」とアイアーは述べました。

ハートフォードでは、さらに厳しい景気後退が起こっても、2008年10月31日時点での未実現損失のほとんどが回復すると予想しています。

変額年金事業のリスクを軽減

ハートフォードはまた変額年金事業のリスクを軽減する計画について改めて表明しました。アイアーは次のように述べています。「株式市場の激しい下落と2008年の前例のない乱高下により、生命保険業界全体において資本面のひずみが生じました。第3四半期業績発表における電話会議で説明しましたように、現在、米国および国際市場での変額年金事業の見直しを行っております。当社の計画は、変額年金事業のリスクを大幅に減少させることを目的に、消費者の嗜好、リスク管理、および資金ニーズの観点から商品性とプライシングを見直すことです」

現在の市場状況を反映し、見通しを修正

ハートフォードはさらに本日、損害保険事業における第4四半期における前期準備金戻入と現在の市場環境を反映し、2008年の通年見通しを修正すると発表しました。ハートフォードは現時点で、2008年の希薄化後1株当たりの利益は4ドル70セントから4ドル90セントと予測しています。当リリースに記載される見通しは、2008年第4四半期に発生し得る予測不可能な給付金や費用の影響を受ける可能性があります。過去においても、前期の見通しでは予測していなかった異例もしくは予測不可能な給付金や費用が当該期になって頻繁に発生するということが起こっています。

2008年の見通しでは以下の条件を見込んでいます。

- 本年末時点での米国株式市場はS&P500の指標で860となる
- 2008年10月1日から同年12月31日の期間の、リミテッド・パートナーシップおよびその他オルタナティブ運用における税引前正味投資損失が2億4,000万ドル
- 2008年10月1日から同年12月31日の期間の、損害保険事業のその他事業における税引前営業損失が5,000万ドル。ただし過去数年、その他事業における営業損失は、見通しで使用される前提条件とは大幅に異なっている
- 2008年第4四半期、税引前異常災害損失が4,000万ドル
- 損害保険事業における準備金の戻入（税引前）が3億ドル
- 日本の変額年金商品において積立金額が下限値に達したことに関連する、税引後利益の減少額が1億4,500万ドルから1億8,500万ドル
- 2008年末までに予定外のDACアンロック（将来の利益見積額の修正）は行わない
- 2008年通年で、希薄化後の加重平均発行済株式数が3億1,300万株

当社の実際の2008年度の結果は、上記の前提条件の多くとは異なる可能性が非常に高いことが予想されます。その要因は、当社のForm10-Q四半期報告書および2007年Form10-K年次報告書で規定したリスク要因、株式市場の変動による運用商品の将来収益予測の大幅修正、事前の予測や見通しが困難な繰延新契約費償却額、当社の実効税率の増減、損害保険事業における損失コスト傾向の変化、前提条件とは異なるレベルの巨大災害損失、長期に及ぶ潜在的な災害リスクの徹底的な年次レビューや環境に係る支払請求およびこれら支払請求における再保険による回収可能性も含むすべての保険事業のための過年度発生支払備金の年次定例レビューから発生する見積りの変更の結果等が挙げられます。

「ハートフォード」について

ザ・ハートフォード・ファイナンシャル・サービスズ・グループ・インクは、米国大手保険および金融サービス会社の1社であり、フォーチュン100社に選定されています。2007年における収入は約259億ドルに達しています。投資金融商品をはじめ、各種生命保険、団体年金、団体生命保険、自動車保険、住宅保険、法人向け損害保険などを提供しており、日本、英国、カナダ、ブラジル、アイルランドで国際事業を展開しています。ハートフォードに関する詳細な情報についてはウェブサイト (www.thehartford.com) をご覧下さい。

また、本リリースには、米国1995年私募証券訴訟改正法 (Private Securities Litigation Reform Act of 1995) において定義されている将来の見通しに関する情報が含まれています。投資家の皆様にはこのような将来の見通しに関する情報が、当社の将来の業績を保証するものではなく、また実際の業績は大きく異なる可能性があることをご了解願います。また投資家の皆様におかれましては、当該リスクおよび不確定要素は将来の当社業績に影響を及ぼす可能性があることをご理解いただきたいと思ます。このような重要なリスクおよび不確定要素には、米国証券取引法により報告が義務付けられている四半期の報告書 (10-Q) や2007年の年次報告書 (10-K) に記載されている項目が含まれます。また、当社では、本リリース発表後にその内容を更新する義務を負いません。

以上